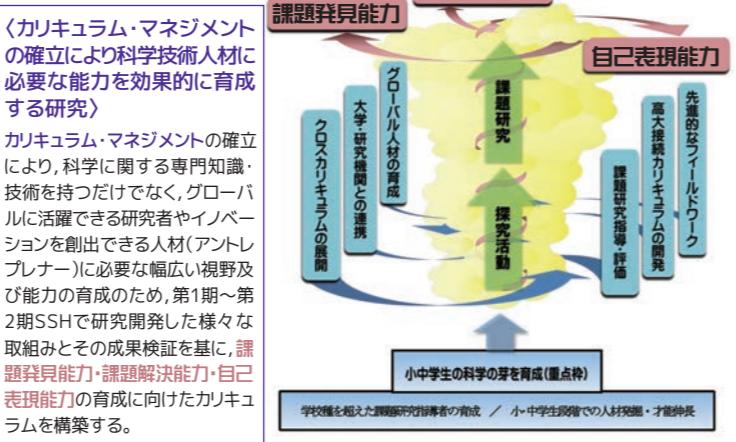


市立千葉高校のSSHフィールドワークを紹介します

市立千葉高等学校のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)は、平成29年度に第3期の指定を受け、令和元年度は3年目にあたります。さらに、平成30年度には、科学技術人材育成重点枠にも指定され、その取組みは全国的に注目されています。

この取組みは右図のとおりに示され、様々な活動を通して市立千葉高等学校の生徒だけでなく千葉市内の小中高校生の科学技術人材の能力を向上させています。その中でも、先進的な取組みであるフィールドワーク(野外実習)を紹介します。

本校のSSHの取組み



1年生を対象に、2泊3日で茨城県つくば市にあるJAXA・高エネルギー加速器研究機構をはじめ、茨城大学、茨城県自然博物館にて理科全般的な活動を通して科学の芽を育成します。

SS-Camp I
[7月下旬実施]



理数科2年生の生徒を対象に、アメリカ・ヨセミテ国立公園を中心に6泊8日で実施しています。理数科生徒全員で行うこのようなフィールドワークは全国的にも注目されていて、この研修では、Intel博物館やスタンフォード大学での学生との交流も実施しています。



理数科1年生が入学してすぐに伊豆大島にて2泊3日で実施するフィールドワークです。この研修で理数科生徒として観察・実習の技能を習得するとともに、自らの知識と主体的な活動を通して、自分の考えを伝える能力・表現力が大きく向上します。

SS-Field Study
[10月上旬実施]

これらのフィールドワークを通して、生徒が日常の授業ではできない体験をするとともに、課題発見能力を高め、主体的な活動を通して課題解決能力を養い、導き出した考えを多くの手法で発表することで自己表現能力の向上を図っています。

問い合わせ 教育指導課 TEL 245-5914

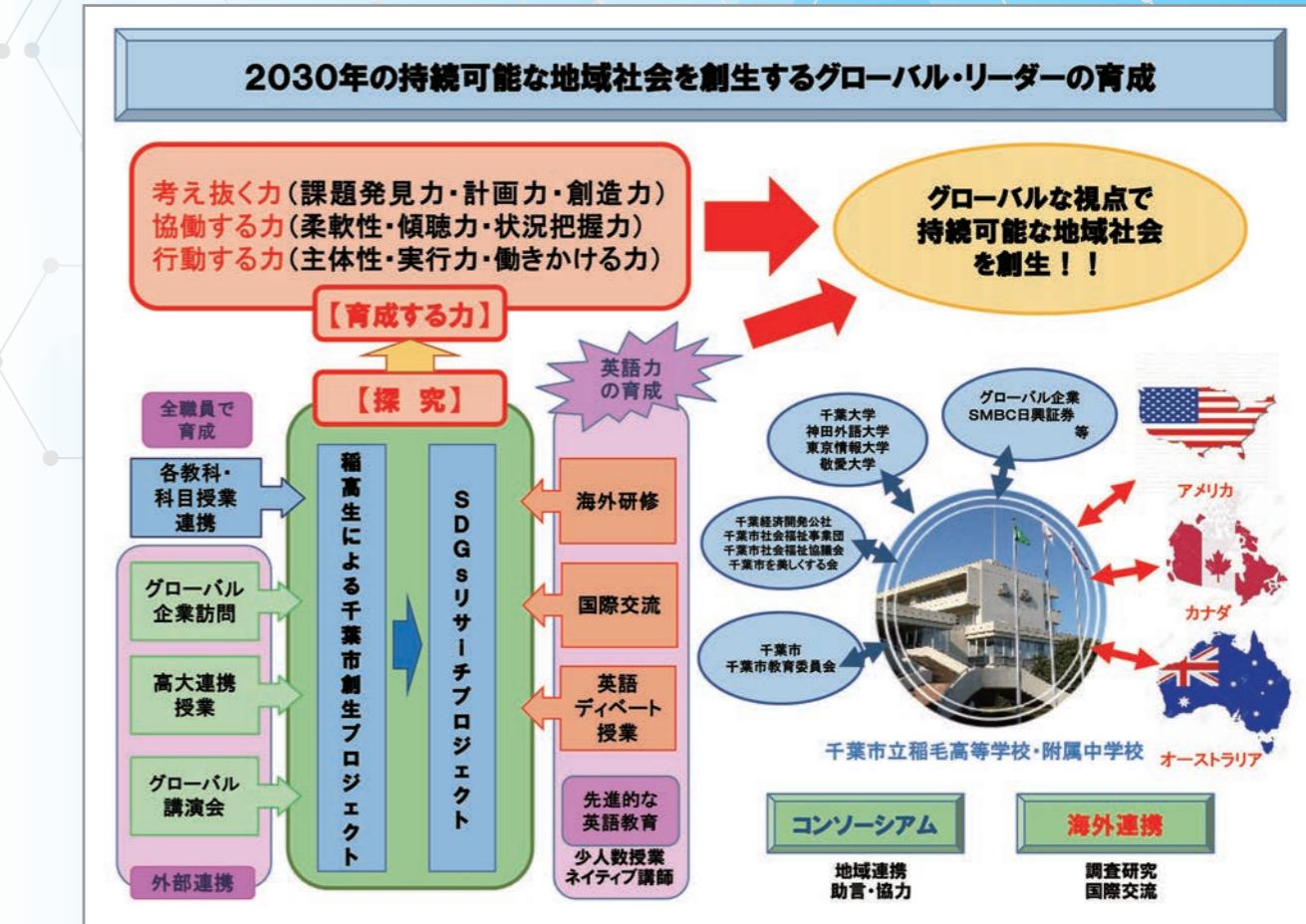
市立稻毛高校・稻毛高校附属中学校の取組みを紹介します

今年度からスタートしました!

『グローバルな視点をもってコミュニティを支える地域のリーダーを育成するため、各地域の特性に応じたグローバルな社会課題研究としてテーマ(SDGs、地域、産業、観光、文化、伝統、医療介護等)を設定し、解決に向けた探究的な学び、地元市町村・企業との連携によるインターンシップや海外研修等を、カリキュラムの中に体系的・系統的に位置付けるなどのカリキュラム開発等を実施する。』文部科学省の事業に採択されました。

指定期間:2019年度～2021年度(3年間)

■ 稲毛高校・稻毛高校附属中学校の取組み



取組みの一部を紹介します!

■ 稲高生による千葉市創生プロジェクト

第1学年では「総合的な探究の時間」がスタートし、研究とはどのようなものか、その方法、SDGsについてなどの研修をした後、7月中旬から、「身近な疑問を千葉市の問題として考える」プロジェクトに取り組んできました。10月にはフィールドワークを行い、11月にはクラス内発表、12月にはクラス内発表で選ばれた班が発表する学年発表会が行われ、連携大学の先生方に指導・助言をいただきました。

■ グローバル企業訪問

10月に、連携大学のコーディネーターで、成田国際空港株式会社、株式会社ファーストリテイリングを訪問しました。12月には、コンソーシアムであるSMBC日興証券株式会社を訪問し、施設見学や、世界を舞台に活躍するグローバル人材に講義を受けるなど、大変貴重な訪問となりました。



問い合わせ 教育指導課 TEL 245-5914